

施設名	三重大学医学部附属病院
-----	-------------

2017年度のAct: カンファレンスによって抽出されたチームの課題・問題点			
Act1	外来部門での基本的緩和ケアの現状や専門的緩和ケアのニーズの把握が不十分。 診断時・治療時の複数の患者・家族から緩和ケアチームの存在が周知されていないとの指摘あり。		
Act2	新規依頼件数の増加やチームメンバーの活動時間の問題のために、依頼元との情報共有や協働に使う時間が短くなり、質の低下につながる可能性がある。		
Act3	電子カルテ上のシステム・フォーマットの整備が不十分な点がある。		
2017年度のPlan: 改善計画① (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)		2017年度の改善計画①に対して実施した内容・1年後の目標達成状況	
目標	計画	Do: 実施した内容 改善計画について、チーム全体で実際に実施したことや工夫したこと、実施が難しいことや苦勞したこと	Follow-up (Check) : 1年後の目標達成状況・理由
外来での緩和ケア提供体制の現状とニーズを把握し、チームで共有する	① 患者数（がん患者数、化学療法外来患者数、放射線治療外来患者数）の把握 ② プライマリから提供されているケアや介入を把握 ③ 外来の専門的対応（がん相談や相談支援）を要した患者・家族の現状を把握 ④ 現行で把握できる課題や問題点の集約	【目標】 外来での緩和ケア提供体制の現状とニーズを把握しチームで共有する 【実施点・工夫点・困難点】 ・外来での緩和ケアリンクの配置が開始。 活動は一診療科に限定。外来看護師は診療補助助が中心のため、配置場所や業務内容が流動的となり、気になる患者へのケアに投入できる人材と時間が不足。 ・専門的緩和ケアが必要と判断した主治医や外来看護師からの依頼に、チームメンバーが直接対応する例も増加。 ⇨心理士や栄養士から外来で問題を把握した際に誰にどのようにつなげばよいかわからないといった意見あり。	達成状況：あまり達成していない 理由： ・外来担当医や外来看護師からチームへの依頼も見受けられるようになったが、誰にどのようにつないでよいかわからないという意見もある。 ・外来医療者とチームメンバーとの関係構築が不十分
2017年度のPlan: 改善計画② (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)		2017年度の改善計画②に対して実施した内容・1年後の目標達成状況	
目標	計画	Do: 実施した内容 改善計画について、チーム全体で実際に実施したことや工夫したこと、実施が難しいことや苦勞したこと	Follow-up (Check) : 1年後の目標達成状況・理由
患者家族への周知のために必要なシステムやツールの検討	①当院チームの具体的なリーフレットを作成し、診断時やスクリーニング時に配布する 必要時に想起してもらえるようにする (理由：本当にケアが必要な時期には、ニーズが明確でなかったり情報を集める余裕がない場合が多い。「今、ここ」でニーズがあるからかかないかでの判断や、患者・家族からのアプローチまで待つのではなく、情報を提供しておく。 ②外来の緩和ケア提供体制の周知と必要なシステムの検討 患者・家族が直接アプローチできるような「緩和ケア相談窓口」を設置し、患者・家族から見やすい窓口を整備する。	【目標】 患者家族への周知のために必要なシステムやツールの検討 【実施点・工夫点・困難点】 ・患者が自由に手にとれるようにリーフレットやポスターの配置箇所や掲示箇所を増やした。 ・患者・家族にとって、緩和ケアチームへのアクセス方法が明確ではない。	達成状況：概ね達成している 理由： リーフレットやポスターなど周知・広報のツールは増えたが、患者や家族に対する「緩和ケアチームへのアクセス」の良さにつながったかどうかは不明である。
2017年度のPlan: 改善計画③ (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)		2017年度の改善計画③に対して実施した内容・1年後の目標達成状況	
目標	計画	Do: 実施した内容 改善計画について、チーム全体で実際に実施したことや工夫したこと、実施が難しいことや苦勞したこと	Follow-up (Check) : 1年後の目標達成状況・理由
依頼元との情報共有、困難事例のピックアップ	①情報共有や症状緩和の質向上につながる電子カルテ上のツールの検討 ・依頼フォーマットの見直し ・オピオイド導入・使用時のテンプレート作成 ・介入内容のサマリシート（簡潔なまとめと評価、振り返り用） ②リンクナースや苦痛のスクリーニングを仲介とした依頼元との関係づくりを強化継続する。	【目標】 依頼元との情報共有、困難事例のピックアップ 【実施点・工夫点・困難点】 ・リンクナースや苦痛のスクリーニングを仲介とした依頼元との関係づくりはすみ、情報共有・患者への対応・介入につながっている。	達成状況：概ね達成している 理由： 困難事例のピックアップは実施されているが、その後の介入や関わりなどのフィードバックの機会が乏しい

2018年度のAct: カンファレンスによって抽出されたチームの課題・問題点			
Act1	患者・家族からのアクセス方法が明確ではない		
Act2	外来部門への緩和ケアチーム活動周知が不十分である		
Act3	電子カルテ内の緩和ケアに関するツールが不十分である		
2018年度のPlan: 改善計画① (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)			
目標	計画		
電子カルテ内での緩和ケア関連ツールの整備	・オピオイド導入時、副作用対策時、オピオイドスイッチ時に使用できるテンプレートを作成する。 ・基本的緩和ケアに関するマニュアルの改訂 ・患者・家族への説明用パンフレットの汎用化 ・入院時介入サマリフォーマットの作成		
2018年度のPlan: 改善計画② (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)			
目標	計画		
外来医療職とのコネクションをつくる	・外来担当関連部署に対して、緩和ケアチーム活動の周知を図る（対応内容や依頼方法の周知に関する勉強会やパンフレット配布） ・がん治療担当科では、外来担当医と病棟担当医が異なる場合が多い。入院中の介入内容を簡便に共有できるようなツール（上記「入院時介入サマリフォーマット」）を使用し外来担当医に周知する。 ・外来緩和ケアリンクナース活動の継続		
2018年度のPlan: 改善計画③ (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)			
目標	計画		
患者・家族への周知活動を行う	・緩和ケアチームについての説明時または苦痛のスクリーニング時に、プライマリがリーフレットをスムーズに使えるようする（目標3：電子カルテから取り出せるよう整備する） ・リボンズハウスでの資料整備		